

吉富重夫先生を偲ぶ

倉田 彰 士

歳月の流れは早いものです。ご令息様から「父が今朝未明、亡くなりました。生前は大変お世話に……」とのお電話をいただいたのが、昭和五十一年五月九日の早朝でした。だから、あの悲しみの日からもう二年近くの日が過ぎ去ってしまったのです。そんな次第で、大変、遅くなってしまう、いまさらという感じがしなくてもありませんが、ここにその当時を回想し、先生を追慕する粗辞を呈し、改めてご冥福をお祈りいたしたいと存じます。

吉富重夫先生ご逝去。享年六十六歳。ご令閨様をはじめご遺族皆さんの懸命のご看病とは、裏腹に、そして、また、その直前選挙の結果、就任を承諾された北九州大学学長の椅子に坐ることもないままの、それは余りにも無情というべき、また、誰もが夢想もなかった文字どおりの急逝でした。

顧みれば、三月中旬のことでした。「検査したところ、腹部にデキモノがあるらしい。だから、それを切除するために入院したいと思えますので、しばらくの間休ませて欲しい」とのお申し出があり、それで、はじめて先生が診療を受けておられることを知りました。でも、私は、ふだんは極めてお元気そのものの先生のことであり、それに最近はまだ「＼むかしとった＼なんとかで、家族ぐるみでスキーをやりだした」ともおっしゃっており、そのためか、血色も一段と良いところから、病状も単純な外科的なことのみ拝察しました。したがって、その賜暇のお

申出には、なんの不安とか、懸念といったような危惧はすこしも持ちませんでした。

程なくして、手術が無事に終わり、面会も可能になったというので、先生の愛弟子である友岡助教授に同道してもらい、先生を病院にお見舞いしたのが四月三日でした。その折の先生は、実にお元気で話し相手を待ちうけていたかのように、自分の方から進んで話題を提供される程の回復ぶりで、私も退院は間近いものと思いました。「明日ごろからベッドを出て歩行練習をしようと思っている」とか、「すぐ大学へも行きますよ」と話されるなど、明るい談笑裡に再会を約しておいとまいたしました。そのような有様でしたので、先生死亡の報せは、本当に信じ難いおどろきそのものでありました。惜しみてもなお余りある痛恨事といわざるを得ません。

先生は、明治四十二年一月五日、長崎県佐世保市でお生れになりました。そして、昭和九年三月、京都帝国大学法学部をご卒業後、立命館大学、大阪市立大学の各法学部の教授を歴任された行政学、政治学の権威者であります。加うるに、その間、私ごときものが駄弁を弄するまでもないことですが、斯界の第一人者たるにふさわしく、日本行政学会や日本都市学会の理事長ないし理事として目ざましい学会活動を続けられました。かくして、本学教授に就任されたのは、大阪市立大学を定年退官された後の昭和四十八年四月であります。

やや黒いものがまじる白髪がとてきれいな紳士で、押し出しがなかなか立派、そして、物腰のやわらかい、すべてについて洗練され、円満でセンスに溢れた学識人というのが、私がいまでも持ち続けている先生についてのイメージです。もっとも、私自身は、先生がわれわれのメンバーの一員となられた当初は、左程、お話しする機会に恵まれませんでした。しかし、先生といろいろと交渉を持つようになったのは、私が学部長の職についてからのこ

とです。その頃、先生は、すでに本学での居心地も満更でなかったとみえて、本学に勤務したことを喜んでおられました。だから、大学評議員や大学院委員会委員といった、実に煩らわしい仕事も快く引き受けて下さり、また、意欲的に学生を指導されるなど、陰に陽に学部のため、大学のため大変なご尽力とご高配、ご教導をいただきました。とりわけ、会議における先生の言動は、永年のキャリアに加えて、苦勞人としての実績の上に立脚したものであるだけに、重鎮というにふさわしく、また、時折、それも言葉少な目の発言ながら、それは、常に適確で説得力も抜群のものがあり、教えられるところ極めて大なるものがありました。お陰で小職をして大過なからしめていただいたと申し上げても決して過言ではありません。改めて衷心より感謝の念を捧げる次第です。先生の本学における在職期間は、わずか三年ばかりの短いものではありましたが、先生が本学に残された足跡は不滅であり、法学部を盤石のものとされた功績は高く評価されるものと確信いたします。吉富先生という高邁なお人柄の方に接し得た私は本当に幸せでありました。そして、真に潜越な表現で恐縮ですが、恐らく私にとって先生は永遠に忘れ得ぬ人のお一人と相なりました。

在天の靈の安らかならんことと、ご遺族の皆さんのご健勝とご多幸をお祈りして止みません。

叙上、おくれればせながら、論集の場を籍りて吉富重夫先生が本学部で活躍された在りし日を偲び、その顕彰ならびにご冥福祈念の粗辞といたします。

(昭和五十三年一月三十日)